

5人が感じた奥州を多くの人に

奥州市が誕生して15年を迎えます。人口減少が進む厳しい環境の中、地域を持続的に発展させるためには、市の魅力を高め市内外に発信し、ヒト・モノ・カネといった資源を地域内で循環させ、また呼び込むことが重要です。この特集では「スポーツ」「観光」「食と農」それぞれの分野で市をPRする活動をしている地域おこし協力隊の5人に、「奥州市の魅力は何か」「その魅力の発信方法は」をテーマにトークを繰り広げてもらいました。

人口減少が進む地方に移住し、地域力の維持・強化を目指す活動を行う「地域おこし協力隊」。都市に住んでいた5人の目に、奥州市はどのように映ったのでしょうか。

協力隊の5人が集結

―これまでの活動をご紹介ください。

藤野浩太 カヌーの普及活動をしてきました。胆沢ダム周辺でカヌー教室を始めて3年目になります。小学生から70歳代までと幅広い人に参加してもらっています。その他市内での体験会や、ジャパンカップでは準備のほか選手として参加し、大会を盛り上げてきました。

小川ちひろ 私たちのプロジェクトのメインは観光ですが、団体旅行などのツアー化されたものではなく、本当にここで暮らしたからこそ見える魅力を、私たち移住者の目線から情報発信しています。一例を挙げると、台湾に行き、南部鉄器の魅力を伝えたり、リトルフォレストの漫画の舞台というを紹介したりしました。また、正法寺で奥州

をイメージした曲のピアノコンサートを開催しました。

陳平芸 台湾向けコーディネートとして、大きく分けて二つのことをしてきました。一つは奥州の人に向けて台湾の文化を紹介すること。もう一つは、台湾で奥州をPRすることです。アーティストの交流や、市内企業が台湾に進出するためのコーディネートなどをしました。今年はコロナで台湾に行けなかったで、SNSでの活動が中心になりました。

高橋史江 奥州市の食と農をテーマに、訪れた先々で見聞きしたことなどをSNSで情報発信しています。また昨年は、市が進める6次産業化推進事業の一環で、銀座のアンテナショップでの販売などもしました。姉妹でお借りしている畑では野菜を育てていて、若い世代に収穫作業などを体験してもらっています。

佐藤幸治 市内の農畜産物のPRや、6次産業化に取り組む人のサポートをしています。自分自身も、市産食材を使用した加工品作りをやっています。

魅力

産業や伝統を支える人

―奥州市の魅力とは何でしょうか。

史江 幅広い産業があることだと思います。基幹は農業かもしれませんが、南部鉄器などの伝統工芸、伝統芸能で使われる太鼓や笛を作っている人もいます。知り合いの笛師さんは、市内はもちろん花巻の早池峰神楽にも笛を提供していて、実は隠れたすごい技術を持った人がいます。びつくりドンキーで使われている省農薬米を作っている人や、カルビー向けのジャガイモを作っている人もいます。

ちひろ 生きる力というか、暮らしの知恵がすごいと思います。それをいつも普通にやっているのが、地元の人には特別なこととは思っていません。漬物一つにしても、家によって違いますし、お土産に持たせてくれたりするそのやりとりから、人のつながりと温かさを感じます。

平芸 「女わざの会」の森田さんがすごいと思います。こちらに来てから伝統的な技術を集めて本にされた人です。それと、江刺で藍染めをやっている人。この土地にひかれて来た人が、ここには無いものを持ってきたというのが面白いですね。

―皆さんの話を伺うと、「人」になるのでしょうか。

ちひろ 情報発信をするとなると、観光だとしても場所や物に目線が行きますが、その裏側の人や作られるまでのストーリーこそ、私たちが伝えたいことなんです。

人間らしい生活

ちひろ こちらに来てアウトドアの機会が増えました。産直で野菜を買ってきて、自然の物を食べて自然の中で遊べる。これが身近すぎて、新しく。自然に近い環境で暮らしているのがいいなと感じています。

平芸 東京の友達がこちらに来た際、何日か私の家に泊まりました。その友達が東京に帰った後に連絡が来て「東京に住む意味あるのかな」っ

て言うんです。東京にいると「人としての生活」という感覚があまり無いって。

―奥州で生活していると、本当に人として生活しているという実感が湧くということでしょうか。

平芸 そうですね。特に、料理をするときに、南部鉄器を使って手間をかけることに生きている実感を感じたようです。

史江 コンビニで簡単に買える物も多いですが、自分で手間をかけて加工したりすることに意味があるんだと思います。東京には話題のレストランなどたくさんありますが、奥州のような生産地の方が、みんなおいしいものを食べていると思うんですよ。ホンニョで乾かしたお米だったり、産直で採れたてのリンゴや野菜を食べられたり。でもこれが当たり前になっているから、自慢したりPRすることが少ないんだと思います。

ちひろ 素材のおいしさを知っていると私も思います。気付くと私の体は岩手のものだけで出来ている気がします。

平芸 お米を買うときは、奥州市のお米を買います。以前はこだわらず安いものを買っていました。

ちひろ 奥州にふるさと愛ができてきました。

幸治 奥州市に帰ってきて、家族との時間が増えたのが良かったと思っています。また、保育園の行事などを通じて、家族が地域に溶け込んでいるのを感じ、これがいいなと思います。

何気ない風景

ちひろ 東京の友達や家族が遊びに来ると、乗っている車を急に止めて、山や畑の写真を撮りだすんです。私も最初そうでした。何気ない所にきれいなものが溢れているんですよ。

平芸 秋だとホンニョと写真を撮ったりしましたね。「夜のホンニョがお化けみたい」って言ったりして。

身近な自然

浩太 胆沢ダムまで来れば「遊べる所があるよ」「気分転換ができるよ」というのが強みだと思います。国道1本で

行けるわけです。そこまでの目的をもっとうまく作れたらいいなと思っています。市内でも知らないという人がまだまだ多いですから。

―カヌーで県外からも人が来ますが、どういった印象を感じていくのでしょうか。

浩太 手つかずの自然の中に競技場があるという感じでしょうか。渓谷の中にいて、川の流れる音や鳥の鳴く声を聞きながら何かをできる。カヌーに乗らなくても、リラックスして心が落ち着ける。そういうところが良いんだと思います。最近では、競技場まで下りてきて、川を見て帰る人が結構増えてきました。

発信

世界につながるSNS

―これまで皆さんはどのようなPRをしてきましたか。

史江 SNSで発信していますが、うれしいことに最近コメントが増えてきました。「そういう場所は知らなかった。今度行ってみよう」

という反応があったり。以前、やながわ羊を載せたら、京都のイタリアンレストランから引き合いが来たんです。「羊の肉を買いたい」って。小さいことではありますが、発信を通じてつながれたのかな、というケースでした。日本全国、世界にもつながることができると嬉しいです。

―紙媒体は紙媒体の良さがあり、SNSとは届ける対象が違う。併用した方が良いということでしょうか。

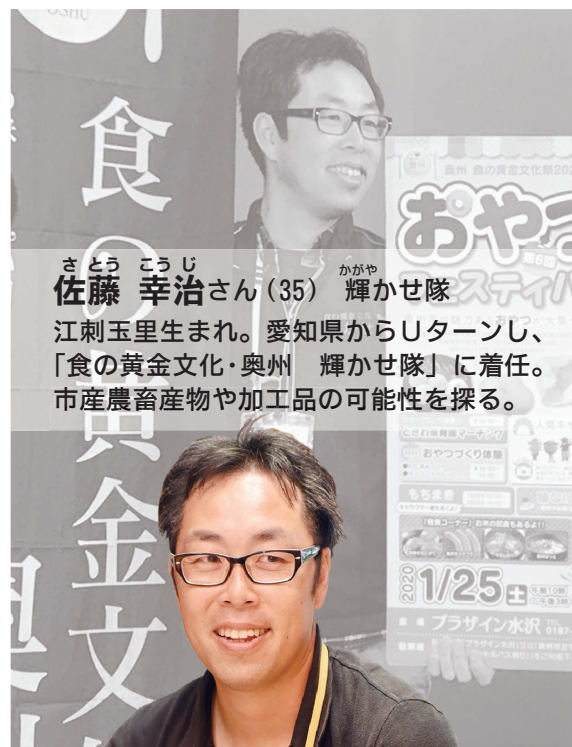
幸治 そうなのかもしれませんね。

―紙媒体は紙媒体の良さがあり、SNSとは届ける対象が違う。併用した方が良いということでしょうか。

浩太 カヌー教室の募集では、チラシを地区センターや体育館に置いてもらいましたが、自分自身でもっといろいろ

自分の言葉の大切さ

浩太 カヌー教室の募集では、チラシを地区センターや体育館に置いてもらいましたが、自分自身でもっといろいろ



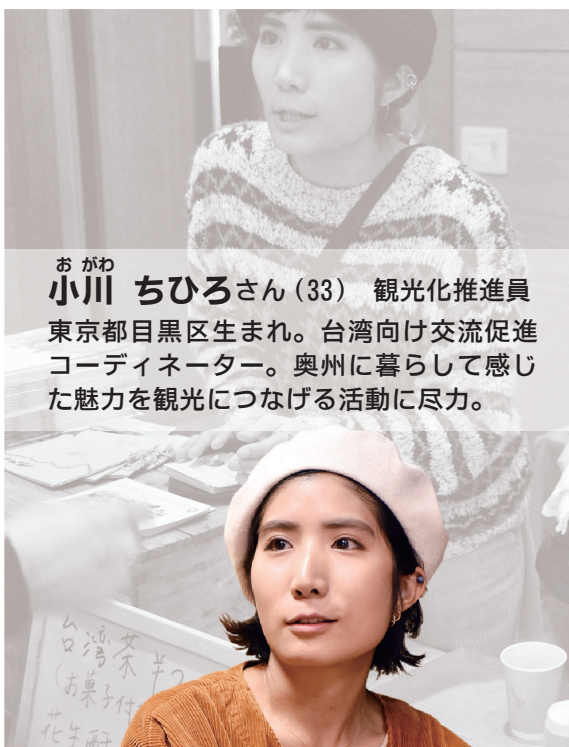
さとう こうじ
佐藤 幸治さん (35) 輝かせ隊
江刺玉里生まれ。愛知県からUターンし、「食の黄金文化・奥州 輝かせ隊」に着任。市産農畜産物や加工品の可能性を探る。



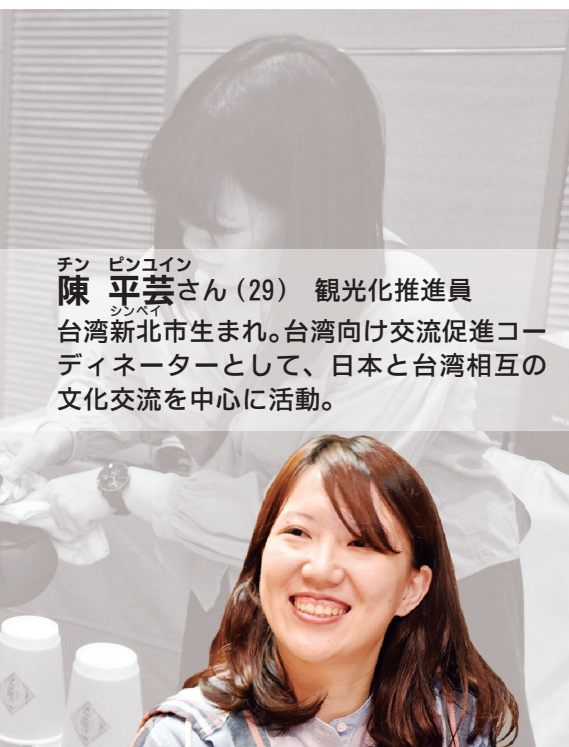
たかはし ふみえ
高橋 史江さん (42) 輝かせ隊
金ケ崎町生まれ。東京での生活の後、「食の黄金文化・奥州 輝かせ隊」に着任。市の「食と農」の魅力を発信する。



ふじの こうた
藤野 浩太さん (31) カヌー普及員
東京都青梅市生まれ。カヌー教室の講師を務めるなど、子どもたちを中心にカヌーの楽しさを伝えている。



おがわ ちひろさん (33) 観光化推進員
東京都目黒区生まれ。台湾向け交流促進コーディネーター。奥州に暮らして感じた魅力を観光につなげる活動に尽力。



チン ビンユン
陳 平芸さん (29) 観光化推進員
台湾新北市生まれ。台湾向け交流促進コーディネーターとして、日本と台湾相互の文化交流を中心に活動。

「市民が市のことをもっと知ったり好きになることで、
それぞれが発信してくれると思うんです」 高橋史江さん

「こんなにかっこいい働く人がいる（中略）」というのを知る機会があれば、
誇りを持って地元で働く若い人が増えるのではないでしようか」 小川ちひろさん

るな所を回れば良かったと思っ
ています。そうすればもつと胆沢ダムやその周辺を知
ってもらえたのかなと。

— SNSがあつて紙があつて、さらには自分が直接行つて自分の言葉で伝える。そのあたりは観光のお二人が多かつたのではないですか。

ちひろ やつぱり相手が興味があることを知っておかないと、こちらの思いだけでは伝わりません。どういう層の人に届けたいかも考えなければなりません。SNSでは目に留まらない人には届かないまま終わってしまうというのを実感しました。そのため、祭りやイベント、台湾などで直接人に会い、南部鉄器でお茶やコーヒーを提供することになりました。人と話すことで伝えられることはたくさんあつて良かったのですが、今

ファンづくり

平芸 ちひろさんと台湾に行つていたころの話です。南部鉄器を持つていくと、「今度生産地を見に行きたい」と言つてくれる人がいて、ファンを作るのが大切なんだと実感しました。あと、台湾で初

めて無農薬でお米を作つている地域があるのですが、その人たちは、秋田の農家さんと同じく来たりしていて、そういう交流が大事なんだなと思ひました。

ちひろ 発信は大事だけれど、その後ちゃんと交流や連携がでないと、ただの情報として流されてしまひます。

平芸 胆沢のアグリ缶森さんも、毎年遠方から人が来てますよね。

— これからのPRの手法としては何があつてほしいか。動画でしようか。

史江 動画はあつた方がいいとは思ひますが、どちらかというとアナログな方が好きなので、今は難しいですけど、遠方でのPRイベントなどがあれば積極的に参加していきたいと思ひます。他にも移住の体験ツアーのようなものがあつても楽しいですよ。オンラインでもできますが、人との交流の場は必ず必要だと思ひます。ファンづくりで1回2回のイベントではできないと思ひますよ。「1回2回やつて担当者が変わったからもう終わり」ではなく、継続することが必要なんだと思ひます。

市内の人が市のことを

史江 意外と住んでいる人が市のことを知らない場合もあると思ひます。そこで、例えば「リンゴ農家さんをお迎えしてお話ししてみよう」とか、普段接点の無い人との交流の場を作つてみるのもいいかもしれません。伝統工芸士さんや、移住してきた人もいいですね。市民が市のことをもっと知つたり好きになることで、それぞれが発信して

アプリで地域情報

平芸 台湾の台東県では、県民にアプリで「今日はこれがあるよ」といった情報を配信しています。

— みんなスマートフォンを持っているのでしょうか。

平芸 台湾は普及率が高いと思ひます。

史江 この辺りでも、スマホに切り替えたという高齢の人も増えているので、もしかしたら奥州市でもできるかも

しれませんね。

お土産で

平芸 台湾に帰る時のお土産でいつも悩みます。重い物は大変なので、南部鉄器の風鈴のはがきがあればいいのになつて思ひます。

浩太 面白いですね。市の風景とかでも。海外の観光地だとたくさんありますね。

幸治 私も旅行に行くとき、絵はがきを買つて帰ります。

ちひろ 遠くの人にもですが「ちよつとしたお札にひと言添えて」など、こちらに来てから手紙を書くことが増えました。でも市販の物だと味気ないなと思つていたので、ホンニヨの絵とか、季節が分かるポストカードがあるといいなと思ひます。

史江 いま市でやつているパソコン用のカレンダー写真を使つても良さそうですね。

5人のこれから

— 皆さんの今後の目標を教えてください。

浩太 カヌー競技場と、ここに来て何かできるという環境を残していく方法を探した

いです。週末だけではなく平日も人がいるようになれば、そこでまた訪れた人が声を掛け合う交流が生まれると思ひます。そのためには、競技する人を育てるクラブなどを作つていきたいと思ひます。そこでトップ選手だつたり、楽しむ人だつたり、大会に協力してくれる人などが広がつてくれればと思ひます。

ちひろ 奥州に暮らして、なにより自然と風土を楽しむことを覚えしました。地元食材やアクティビティを楽しむイベントの企画だつたり、伝統工芸品を使ったアウトドアグッズの開発だつたりを、地元の生産者さんや職人さんとコラボレーションして、興味のある人に届けられたら面白いと考へています。奥州にある「飾らない日常」こそ私たちにとつては「ここでしかない非日常」の魅力です。

平芸 来年は協力隊最後の年になります。でももっと台湾のことを伝えたいという気持ちがあつて、日本と台湾との交流や、商品の背景や文化を伝えながら販売できるホームページを作りたいと思つて

います。

史江 引き続き、いろいろな人にお会いしたり、あまり知られていないことの情報発信だつたり、6次化に取り組んでいる人のお手伝いなどをしながら、勉強していききたいと思ひます。また、私たちは市と雇用関係はないため、市と市民の中立的な立場だと思つていますので、この点を生かして、双方をつなげる役割ができたらと思ひます。

幸治 市の特産物を作る農家さんと加工をする人をつなげて、新たな商品開発のお手伝いをしたいと考へています。また、コロナが収まったから、市の食と農を体験できる農家民宿のサポートもしていきたいです。最終的には、残りの活動期間で市産食材を活用した仕事を作り、自分自身でやつていきたいです。

市では市の魅力を効果的に発信・活用するため「都市プロモーション課」を4月に新設しました。今回挙がつた話題を参考にし、市民や市外の人に選ばれるまちを目指した取り組みを進めていきます。



胆沢トレーニング農場セミナーハウスにて